森林面積97％の村の「森林銀行事業」ご紹介

ミズナラ材を活用した国産ワイン樽の開発

山梨県丹波山村地域創造課

ご存じですか？

国産ワインはほぼ全て海外製の樽で熟成

フランスやアメリカなどから輸入した樽で香りづけ

私たち丹波山村は、

超稀少な国産樽を作った自治体！

山梨県丹波山村

人口約500人　関東圏で一番小さな村

丹波山村について

▶位置

山梨県の北東部、東京都と埼玉県に隣接

▶特徴

村全域が「秩父多摩甲斐国立公園」の中に位置する

森林面積が97%、そのうち70%が東京都の水源涵養林

多摩川の源流「丹波川」が村の中心を流れる

▶村にないもの

駅、コンビニ、コンビニ

ちなみに

「森林銀行」は丹波山村の商標登録です。

確証はなし。手探りで始めた樽づくり

木を伐採するところから始める樽づくりは国内にほとんど例がなく、不確定要素が多いことから、発案当初は実現の可能性に疑問を唱える声も聞かれました。しかし、地道な試行錯誤の結果、さまざまな困難が伴いながらも、伐採、加工、組上げ、ワイン熟成の工程において協力者を得られ、村の事業として正式に認められました。予算がつくまでかかった時間は実に2年以上。丹波山村産ミズナラ材のワイン樽は、世界にまだ17個しかない、稀少品です。

村の木材に新たな活路を

「ジャパニーズオーク」とも呼ばれるミズナラの木は、丹波山村でもかつては木材として活用されていましたが、林業従事者の高齢化などにより、手入れが行き届かないまま長年放置されているものも多くあります。丹波山村の山から切り出したミズナラの木を、製材と加工は富山県と岐阜県の業者に、樽の組み立ては京都府の会社に依頼。丹波山村の涼しい気候で育ったミズナラは木目が詰まっており、良質な樽材になりました。

山梨県丹波山村 ｜ ミズナラ材を活用した国産ワイン樽の開発

丹波山村産ミズナラ樽で
県内の酒造メーカーと
ワイン、ウイスキーを開発

2022年、ミズナラ樽で熟成させた初めてのワイン「2021丹波山ワイン シャルドネ」をリリース。ふるさと納税の返礼品として紹介したところ、ブドウから樽まで全て山梨県産の“オール山梨”のワインは大きな反響を呼び、わずか6日で品切れに。

ワインの開発に続き、2024年にウイスキーも完成。丹波山村の新たな特産品として道の駅やふるさと納税で人気に。第2弾のリリースに向けて現在も熟成中。

樽の利用に関する問い合わせは多いものの、追加生産や、既存の樽のメンテナンスにはコストが…

森林の価値を高め、国産材の可能性を広げたい！

山梨県丹波山村 ｜ ミズナラ材を活用した国産ワイン樽の開発

寄付企業様のメリット

1 ウェブサイト・広報誌で紹介

広報「たばやま」や、村の公式ホームページで企業名などをご紹介しています。リンク先のURLの掲載も承っています。

2 村長から感謝状を手渡し

感謝状の贈呈式を丹波山村役場で行っています。贈呈式では村長と直接意見交換をしていただけます。

3 「企業の森」として登録

村内の山林を「企業の森」として登録し、研修やPRにご活用いただけます。現在、日本コカ・コーラ株式会社様、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社様等にご登録いただいています。

4 視察等の受入

近年、人口500人の小さな村の地方創生の取組を数多くの企業様に見学いただいています。寄附企業様の研修等での視察を歓迎いたします。

【ご連絡先】丹波山村地域創造課（矢嶋）TEL：0428-88-0211 E-mail：souei@vill.tabayama.yamanashi.jp